

2. 評価結果 (詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.理念に基づく運営					
1.理念と共有					
	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスの意義を職員全員で確認し、本人本位の支援、笑顔あふれる暮らしを支える。この理念を全職員でつくりあげている。		
	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	カンファレンス時、代表が理念を読んで確認している。職員が目につく場所に理念を掲示してある。また、日々どのように実施したらよいか職員全体で考えてケアを行っている。		
2.地域との支えあい					
	3	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の文化祭や保育園・小学校の行事に参加している。食材やその他の買い物も地元中心にして利用者とともにやっている。		日常生活の中でも地域住民との交流、話す機会を増やして行きたいと意欲がある。地域密着型サービスで大切な地域との支えあいで地域の一員としての役割から地域資源の力を借り、事業所のこれまで積み上げてきた認知症ケアの実績を地域の人々に伝える等され、一層より良い支えあいを期待します。
3.理念を実践するための制度の理解と活用					
	4	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価や外部評価の意義を全職員が十分に理解しており、改善計画を立て取り組んでいる。その一つに地域との連携が十分でないため早急に運営推進委員会の開催を予定している。		
	5	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	開設間近で利用者数が満室近くになってまだ、日が浅く会議は今後開催予定である。施設長、管理者とて市の職員、地区長さんに声かけしている段階である。各ユニットの家族代表はお願いしてある。		地域に開かれたサービスとして質の確保を図るために2ヶ月に1回以上の運営推進会議の開催を望みます。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
		市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村との取り組みは行われていない。		市の行事の把握、献立表の栄養チェックの相談などで出来る事から連携をとることが望ましい。
4.理念を実践するための体制					
		家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	暮らしぶりや病院受診時の結果などを担当者が電話で報告している。買い物支援をしている利用者については、その都度家族と連絡をとりながら実施している。又、毎月苑便りを発行している。		
		運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱を設置し、電話や面会時など常に問いかけ家族等が相談しやすい雰囲気づくりに留意している。意見があった時は取り入れている。家族会を年に2回予定している。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者の希望を取り入れたユニット間の異動を行っている。		
5.人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所外で開催される勉強会や研修に、なるべく多くの職員が参加できるようにしている。緊急時の手当てで実技も含めた研修の予定もある。研修を受講した職員は月に1回のカンファレンスの時に報告し全職員と共有している。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会に加入して研修や勉強会を受けている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1.相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	本人や家族に事業所を見学してもらったり、本人のお宅に職員が会いに行っている。		
2.新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	日曜大工、漬物作り、野菜作りなど本人の得意分野で力を発揮していただいている。職員が今まで知らなかった事を教えていただき感動する場面もある。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1.一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	日々のかかわりの中で声かけ、表情から本人の思いの把握に努め、本人の思いがかなうようにしている。		
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	各ユニットごとの担当者会議で本人や家族の要望を聞き話し合っている。また、カンファレンスの時、個別のケア会議を実施している。		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	職員が現状を把握し、精神状態、身体の変化があった時等、職員で話し合い計画を立て直している。		介護計画の変更時は早めに記録にすることが望ましい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3.多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人家族の状況に応じて、受診の送迎、リハビリの送迎を行っている。		
4.本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が希望するかかりつけ医となっている。原則として家族同行の受診となっているが、不可能な時には職員が代行している。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	まだ、重度化や終末期の利用者がいないので、職員全員での方針の共有が図られていない。		本人、家族、かかりつけ医、事業所側の考え方や意向がずれないように関係者全体の方針の統一が望まれる。
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1.その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	勉強会やミーティングの折に職員の意識向上を図っている。人前でのあからさまな介護はみられない。苑便りよりに掲載する写真は家族から了解をとっている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の不穏につながるので利用者のペースに合わせた過ごし方をしている。話の中で望みを聞いている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	力量に応じて準備や片付けと一緒にしていただいたり、献立作りで希望を聞いたアンケートを取りメニューを決めている。また、食事の前にメニューや材料の説明をして感心を持っていただけるようにしている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日、入浴できる。大体午後であるが外出の予定がある時は午前中、はいついていただいている。入浴されない方など足浴を楽しんでもらっている。		利用者の希望に応じて夜間の入浴もできるように配慮が望まれる。
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の一人ひとりの能力にあった仕事をお願いしたり、役割楽しみごとを作り出している。また、ドライブや散歩、買い物などで気晴らしができるように支援している。一人ひとりが得意か把握できている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	本人の気分や体調に応じて、散歩、ドライブを行っている。歩行できない方も定期的に車椅子での散歩やドライブに出かけている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関や居室には鍵はかかっている。外出される時はチャイムで気付き、あとをついて行って見守っている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルを作成し、年2回消防署の職員、利用者と共に避難訓練を実施している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取状況を毎日把握し、確認記録して申し送っている。		
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	飾りつけが幼稚なものでなく、家庭的で落ち着いた雰囲気である。天窓、中庭からやさしい光が入り明るい。利用者が好んでたずまれる廊下の窓辺にはさりげなくテーブルを置いてある。トイレ、浴室も不快な臭いもなく爽やかである。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の写真や大事にしている写真が飾っており お気に入り的小物等を置いてある。		